



2020年2月7日

各位

会社名 株式会社キムラタン  
 代表者名 代表取締役 清川 浩志  
 (コード番号 8107 東証第1部)  
 問合せ先 常務取締役 木村 裕輔  
 (電話 078-806-8234)

特別損失の計上及び2020年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年3月期第3四半期決算において特別損失を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

併せて、最近の業績の動向等を踏まえ、2019年11月1日に公表いたしました2020年3月期通期(2019年4月1日～2020年3月31日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

減損損失

当第3四半期連結累計期間の業績は、赤字幅は前年同期に対して縮小してはいるものの、計画どおりの改善には至っていないことを踏まえ、保守的な前提のもと、店舗設備、本社設備及びソフトウェア等について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い89百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

2. 2020年3月期通期連結業績予想の修正(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 5,400	百万円 △130	百万円 △150	百万円 △160	円 銭 △1.40
今回修正予想(B)	4,900	△400	△420	△520	△4.40
増減額(B-A)	△500	△270	△270	△360	—
増減率(%)	△9.3	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	4,042	△622	△639	△654	△6.15

3. 通期業績予想の修正の理由

当第3四半期累計期間の売上高は、中西の子会社化により全体では21.9%の増収となりましたが、既存アパレル事業の売上高は、前年同期比1.5%の減収と厳しい結果となりました。

当第3四半期会計期間(2019年10月～2019年12月)では、新ブランド“n.o.u.s”の導入や「愛情設計」リニューアル効果もあり、主力のBaby Plazaでは既存店ベースの売上高が前年実績を上回り、ネット通販も伸長したことから、既存アパレル事業全体でも微増ながら増収に転じましたが、計画には達しておりません。

売上総利益率につきましては、生産拠点の見直しによる製造原価低減に成果は現れつつあり、前年同期に対しては1.9ポイント改善したものの、12月の暖冬による防寒衣料の不調等の影響で値引き販売が増加したことから計画どおりの改善には至りませんでした。

以上のとおり、当第3四半期の実績と昨今のアパレル市場の厳しい環境を勘案し、また、前掲の減損損失の計上を織り込み、通期の業績予想を修正いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上